

# 令和元年度 高島市立学校 学校教育到達目標

マキノ東小学校	.....	1
マキノ西小学校	.....	2
マキノ南小学校	.....	3
マキノ中学校	.....	4
今津東小学校	.....	5
今津北小学校	.....	6
今津中学校	.....	7
朽木東小学校	.....	8
朽木西小学校	.....	9
朽木中学校	.....	10
安曇小学校	.....	11
青柳小学校	.....	12
本庄小学校	.....	13
安曇川中学校	.....	14
高島小学校	.....	15
高島中学校	.....	16
新旭南小学校	.....	17
新旭北小学校	.....	18
湖西中学校	.....	19



〈児童生徒の実態〉

- ・素直で人なつこく優しい。
- ・指示されたことは最後までしっかりとやり遂げる。
- ・論理的に書く力が不十分である。
- ・見通しをもち筋道を立てて考えることが苦手な児童が多い。
- ・活力は感じられるが、けじめのある行動がとりづらい児童が多い。

〈めざす子ども像〉

- 進んで考える人
- 思いやりのある人
- 元気ががんばる人

〈めざす学校像〉

- 学ぶ喜びがあり充実できる学校
- 活力と明るさに満ちた楽しい学校
- 保護者や地域に信頼される学校

〈本校の教育課題〉

- ・思考力、判断力、表現力などの活用力の育成
- ・学びの意欲の高揚
- ・チャレンジ精神の育成
- ・思いやりの心の醸成
- ・ふるさとを愛する心の醸成
- ・日常的な体力づくり習慣の確立

〈学校教育目標〉

ふるさとを愛し  
心身ともに健康で  
自ら学び挑戦する人の育成

〈地域の実態等〉

- ・恵まれた自然環境
- ・歴史ある街並み、高い文化
- ・温かい人柄
- ・学校に対する高い関心
- ・学校教育への期待
- ・少子高齢化
- ・新興住宅地の発展、空き家の増加

〈中期的目標〉

- 確かな学力をつける園小中一貫教育の推進と着実な積み上げ
- 地域とつながる学校の構築
- 知・徳・体のバランスの取れた児童の育成
- びわ湖を中心とした自然や地域と共生する力の育成
- 主体性を育て、生き方を学ぶ教育の推進
- 「いじめ」「不登校」のない安心、安全な学校づくり
- 教職員の授業力・指導力・課題対応力向上

〈H30学校評価 概要〉

- ・児童、保護者、教員による授業評価(年2回)における理解度、満足度・読書活動の推奨 … A
- ・家庭学習の習慣化と内容の充実、漢字検定の実施による基礎学力の定着 … B
- ・きめ細かな児童のみとりと個に応じた指導・支援の徹底・課題のある児童への組織的対応 … A
- ・自然教室、地域のよさを生かした活動(地域学習)や環境学習の実施 … A
- ・「いじめ撲滅」に向けた児童の主体的な活動の推進・縦割り活動(異年齢集団)の充実 … A
- ・フィジカルタイムや業間遊びによる体力づくりの取組の推進・進生活リズムの確立を図る取組の推進 … B
- ・授業改善、いじめや不登校等の早期発見・未然防止、組織的で迅速、的確な対応、保護者・地域との信頼関係の構築 … A
- ・学校評価の実施・学校運営協議会の開催・民生委員児童委員懇談会の開催 … A

○学びの基礎基本の徹底と学力向上

- ・学習規律の徹底
- ・基礎基本の確実な定着
- ・思考力、読解力、書く力の向上
- ・読書習慣の定着
- ・日々の学習習慣の定着
- ・個別支援の充実
- ・ノート指導の充実

○子どもを繋ぐ学びの創造

- ・児童が主体的に、思考・判断・表現し、課題解決を図る授業実践
- ・対話を通して学び合い、学んだことを深め、達成感を感じられる授業実践
- ・ICT機器の活用

○豊かな人間関係と社会性を育む教育の推進

- ・いじめをしない、させない、見逃さない取組の徹底
- ・特別支援教育の充実
- ・生徒指導、教育相談、人間関係づくりの充実と保護者との連携強化

○地域のよさを生かした教育の充実

- ・校区全域を生かした学習活動や環境教育の実施
- ・自然教室への取組による、達成感や感動の感受及び琵琶湖環境保全への意識高揚
- ・故郷を愛する心の醸成

○健康の保持増進と体力の向上

- ・体力づくりへの意欲の向上と目標をめざして頑張る児童の育成
- ・自分の健康について考え、管理できる力の向上

・『マ東漢字検定』の実施による学習習慣の確立と学習意欲の向上

・『パワーアップタイム』による活用力を中心とした学力向上(毎週金曜日40分)

・個別指導の実施(2・4週のパワーアップタイム)

・「子ども新聞」を活用した読解力の育成

・読書貯金の実施〔1年85冊、2年90冊、3年100冊、4年50冊(100P以上の本30冊)、5・6年60冊(100P以上の本40冊)〕  
【達成率90%以上】

・家読(週末読書)の取組

・『学習・読書&生活習慣チェックカード』による家庭学習の習慣づけ、生活リズムの確立〔月1回〕

・復習、予習に特化した家庭学習の実施

・家庭学習は、「読書、宿題、予習・復習」を合わせて、1年15分、2年30分、3年45分、4～6年60分以上【達成率90%以上】

・根拠に基づいた話し方、書き方の指導時間の確保による「読解力」「書く力」の向上

・思考ツール、ホワイトボード等を活用したグループ学習の場の設定

・算数科を窓口、「読解力」「書く力」の向上を図る授業改善のための研究授業の推進【全学年で実施】

・県教育委員会主催の「学ぶ力向上に係る学校訪問」との連携による、学力の向上につながる授業研究の実施

・全校児童による集金活動(『歌声の輪』の取組<いい顔、いい声、いい心>)の取組

・異年齢集団(縦割り活動)活動の充実

・児童が主体となったいじめ撲滅に向けた取組の継続

・いじめ点検や情報交換会によるいじめや不登校の早期発見、未然防止【週1】

・課題のある児童への組織的対応の充実と保護者への効果的な発信、連携

・特別支援教育に係る研修の実施

・特別支援教育に対する理解教育推進

・カヤック開き(全学年)、自然教室[カヤックによる琵琶湖西岸縦断活動](5.6年)の実施

・元北小区でのマラソン大会の実施

・その他、各学年における地域学習の実施(3年:西内沼学習、水鳥観察、4年:筆算学習等)

・活動を支えて下さる人々への感謝の思いや地域のよさを改めて意識する心の醸成

・フィジカルタイムの推進による運動不足の解消

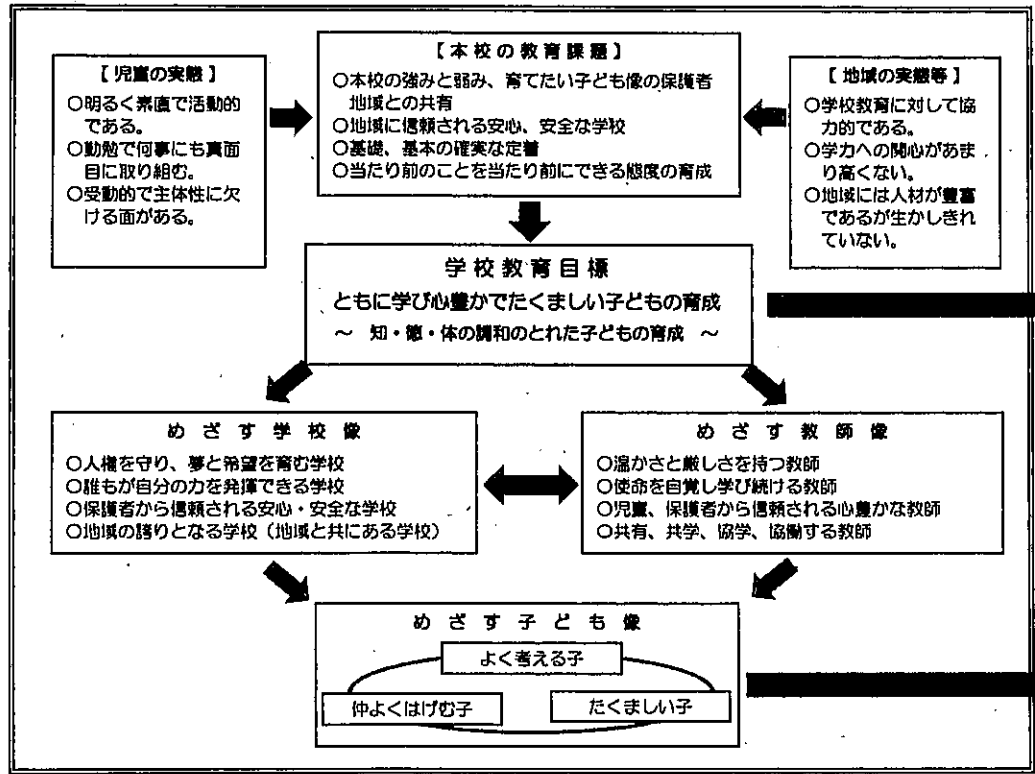
・年間を通したマラソン、なわとびの取組

・マラソン大会、なわとび大会にむけての取組

・「早寝・早起き・朝ご飯」の推進

・適正なスクリーンとの接触時間の啓発





**本年度の重点**

どの子にも優しく 地域に、未来につなぐ 学校教育の推進

～ 小規模校の良さを生かした「学び」のある 学校の創造 ～

**中期的（3年間）目標**

- ・9年間を見通した小中一貫教育の推進
- ・全国レベルの学力保持、継続
- ・いじめ、不登校、体罰のない安全・安心な学校づくり
- ・教職員の授業力、課題対応力の向上

平成30年度 学校評価の概要

○児童、保護者評価

- ・学習理解 (A) 家庭学習の定着 (B) 読書 (C)
- ・学校に行くのが楽しい (A) 保護者の意見や相談の受け止め (A) いじめ防止 (A)
- ・あいさつ、生活リズム「早寝・早起き・朝ごはん」(B) 安全・安心な学校づくり (B)

○学校評価委員

- ・学力アップ (B) 心アップ (A) 体力アップ (B)
- ・教職員の指導力アップ (B) 保護者・地域との連携アップ (B)

【指導力点】

**学び深く（学力アップ）**

- ◎全員参加の授業づくり（授業改善）
  - ・どの子も活躍できる、一人ひとりがわかったと納得できる授業をつくる。
  - ①魅力ある学習課題、導入、発問の工夫
  - ②自己の考えを広げたり深めたりすることのできる対話の工夫
  - ③子どもと子ども、子どもと教材、子どもと教師をつなぐ教師の役割の自覚
- ◎学力の定着
  - ・学ぶ力向上策の実施
  - ①小中一貫教育の推進
  - ②学びに向かう力推進事業による幼小連携の充実
  - ・授業のユニバーサルデザイン化
  - ①端的で的確な指示
  - ②ICT機器の効果的な活用
  - ・「卒業するまでにこれまでは」の作成
  - ①個に応じたきめ細やかな指導
  - ②自己表現力を伸ばす取組
  - ③読書活動の充実

**笑顔あふれ（心アップ）**

- ◎いのち・人権・人とのつながり
  - ・特別の教科「道徳」の時間の充実
  - ・異年齢交流、自然体験学習、地域活動体験等を体系的・意図的に実施
- ◎豊かな人間性、社会性を育む
  - ・キャリア教育の充実
  - ・役割や責任を果たし、役に立つ喜びを体得するとともに、集団の中で自分を生かす。
  - ・多様な人との関わりがある体験活動
- ◎特別でない特別支援教育の推進
  - ・子どもを見取り、困り感に寄り添い、子どもにとって一番良い方法を考え対応する
- ◎凡事徹底の学校風土の構築
  - ・当たり前のことが当たり前に行える子へ

**體やかに（元氣アップ）**

- ◎運動好きにすること、動ける体の基礎を作る
- ◎保健・安全教育の充実
  - ・命を守る安全意識の向上と自分の健康、体力向上を意識できる子を育てる

**教職員の教育力を高める**

- ◎学び続ける姿勢と学び合う教職員集団
  - ・「チーム」で勝負する教職員集団
  - ・人権意識高揚のための研修の実施
  - ・指導力、実践力、対応力の向上

**地域とともにある学校**

- ◎学校の視野を広げ、幅広い見方からの意見を適切な判断の参考にする。
- ◎地域との協働、相互参画による教育活動の充実（特色ある学校づくり）

【到達目標・数値目標】

**学び深く（学力アップ）**

- ◎全員参加の授業づくり
  - ・教師の「しかけ」について認め合い、語り
  - ・OJ T研修の充実と教育財産の共有化
  - ①児童、保護者の授業評価 90%以上
  - ②授業改善への自己評価 90%以上
  - ③つなぐ役割の自覚 80%以上
- ◎学力の定着
  - ・低学年からの学習規律の定着
  - ・授業との繋がりの重視した家庭学習
  - ・授業のユニバーサルデザイン化
  - ※ルールの明確化、視覚化、環境の工夫
  - ①学習意欲の向上 90%以上
  - ②家庭学習を進んでする 90%以上
  - ③平日30分以上の読書 50%以上
  - ④全国学業調査で全国平均を超える
  - ⑤全国学業調査の無回答率 5%未満
  - ⑥きめ細やかな指導への自己評価 85%以上

**豊かな心**

- ◎いのち・人権・人とのつながり
  - ・年1回以上の道徳授業の公開
  - ・人権感覚の向上
- ◎個の自立と集団力の向上
  - ・チャレンジする子、人のために行動できる子を増やす
- ◎特別でない特別支援教育の推進
  - ・個別の支援計画の活用
- ◎凡事徹底の学校風土の構築
  - ①学校が楽しい子 90%以上
  - ②自己肯定感を持つ子 90%以上
  - ③仲の良い友だちがいる子 90%以上
  - ④いじめ防止への取組評価 90%以上
  - ⑤しっかり挨拶ができる 90%以上

**體やかな体**

- ◎体育授業の充実、健康教育、食育の推進
  - ①進んで運動に取り組む子 85%以上
  - ②健康安全に気をつける子 85%以上
  - ③早寝・早起き・朝ごはん 95%以上

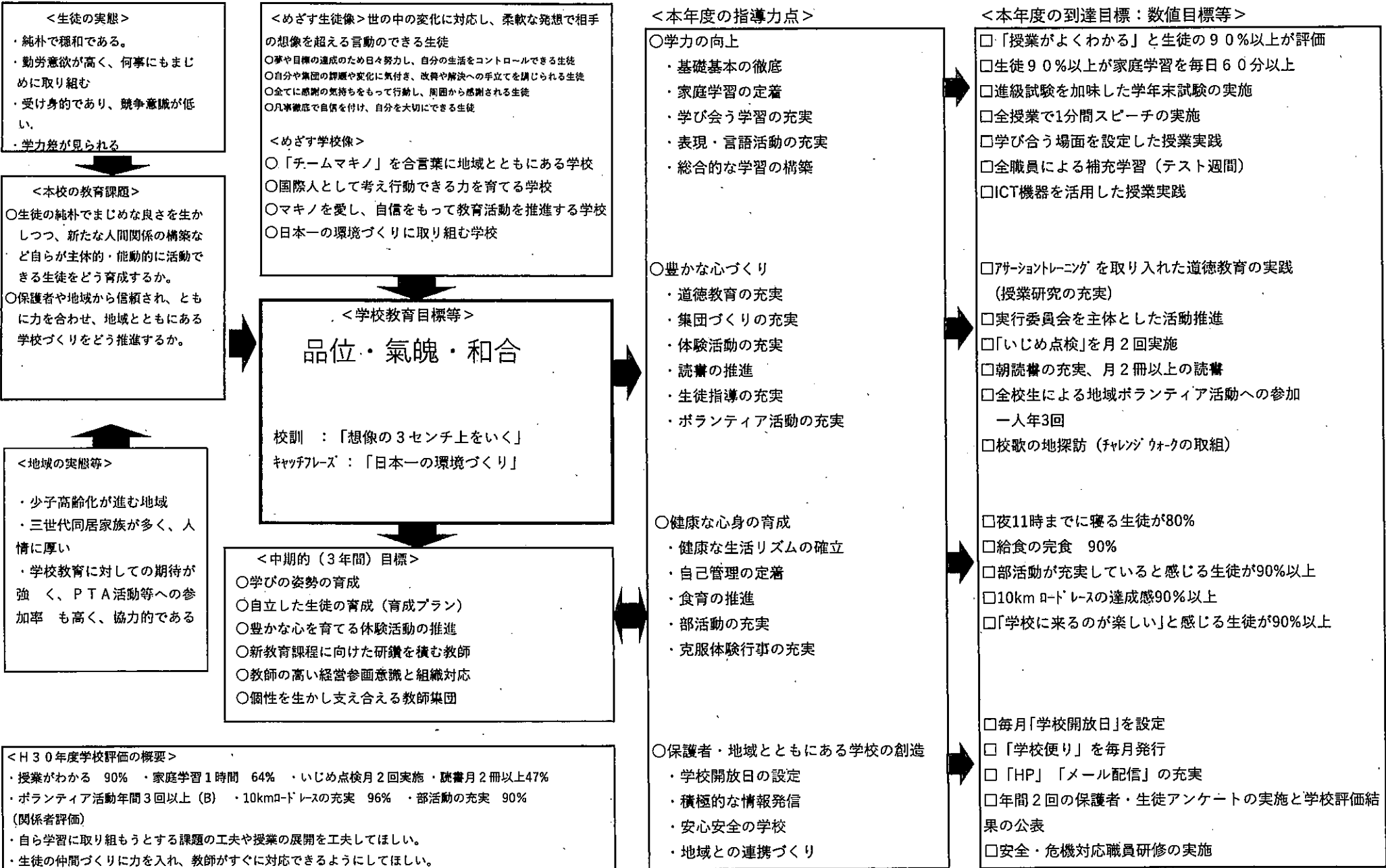
**教職員の教育力**

- ・学校運営への参画意識の向上
- ・人権感覚の向上
- ①相談できる先生がいる 90%以上
- ②相談しやすい学校 90%以上

**地域とともにある学校**

- 学校運営協議会の効果的な開催
- 定期的な情報発信
- 年2回の学校評価の実施
- 地域、関係団体との連携推進

令和元年度 学校教育到達目標 高島市立マキノ中学校



〈児童生徒の実態〉  
 〈児童の実態〉  
 ◎明るく元気、人なつっこい。  
 個性豊か、知的好奇心高い。  
 ●学力、生活実態とも二極化傾向。  
 自信、意欲、根気、達成に課題がある。  
 ●些細なことでトラブルになるなど、児童の心に不安定さがみられる。

〈めざす子ども像〉  
 ○かんがえ（知）  
 自ら学び、課題を見つけ、考え、解決・創造する子  
 ○おもいやり（徳）  
 相手の気持ちを考え、仲間と支え合い、協力する子  
 ○たくましい子（体）  
 ゆめと目標・自信をもち、ねばり強く挑戦する子

基礎学力の定着と読み解く力の育成のための力点  
 ◎基礎的・基本的な知識・技能の定着  
 ・学習規律の確立  
 ・『ひ・と・み』学習の推進  
 （ひとりで・ともに・みんなで）  
 ◎高島・今津を誇れる地域学習  
 ・地域の人・もの・ことに学ぶ  
 ◎ICTの活用  
 ・タブレットを活用した授業づくりの工夫

かんがえ（知）  
 ◎「勉強がわかり、できる」の自己評価90%以上（前年度82%）  
 ◎思いや考えを書き学習を、毎日1回以上実施（字数やキーワードの条件付き）  
 ◎地域学習を年間計画に位置付け、各学年とも年1回以上実施  
 ◎「ICTを活用した授業に取り組んでいる」教員の割合90%以上（前年度82%）

〈本校の教育課題〉  
 ●基礎学力の定着、思考力・表現力に課題  
 ●人間関係力の構築に支援を要する児童が多い。  
 ●通常学級において特別支援を必要とする児童が多く、きめ細かな支援が行き届きにくい。

〈学校教育目標〉  
 心身共に健全で  
 創造性豊かな子の育成  
 ・思いやりのある子  
 ・ふかく考える子  
 ・強くたくましい子

豊かな心・人間性を醸成するための力点  
 ◎いのち・人権  
 ・生活の合言葉／あしたの三つ「あいさつ、しんせつ、たいせつ」  
 ・毎月10日は「校内人権の日」  
 ◎いじめゼロの実践  
 ・いじめや暴力には毅然とした態度を示す（警察との連携）  
 ※児童会の取組につなげていく

おもいやり（徳）  
 ◎いのち・人権  
 ①「学校に来るのが楽しい」の自己評価90%以上（前年度80%）  
 ②校内人権の日に、教員が交代で人権啓発のメッセージを伝える  
 ◎いじめゼロ  
 「学校は、いじめ問題に誠実に取り組んでいる」の保護者評価75%（前年度57%「わからない」が多い）

〈地域の実態等〉  
 ・豊かな自然、歴史文化伝統に恵まれた環境  
 ・生活様式、価値観、見方考え方が多様  
 ・家庭や地域の教育力は一定保たれつつも不安な実態要素あり

〈中期的目標〉  
 ○言語能力の向上を図り、正しい用語による論理的な表現力の育成を図る。  
 ○成就感や達成感を高める行事の工夫と連帯感や充実感を深める学級づくり  
 ○すこやかタイムの定着と保健安全指導の工夫

体力・気力を培う活動を推進するための力点  
 ◎運動会や水泳、マラソン大会、すこやかタイムなどの運動機会を年間通して設定  
 ◎早寝早起き朝ごはんの推進  
 ◎保健教育・食育の充実

たくましい子（体）  
 ◎「すこやかタイムをはじめ、学校教育活動全般で体力づくりを図る」の自己評価90%以上（前年度86%）  
 ◎「早寝早起き朝ごはんを家族で実践している」保護者の割合90%以上（前年度85%）

〈H30学校評価 概要〉  
 ・（児）「勉強がわかりできる」の割合 自信をもってできる50% おおむねできる80%。  
 ・（教）わかる授業72%、生活習慣ルール指導80%、人権教育80%。  
 ・（P）地域行事参加 74%、ゲーム・テレビのきまり 58%、家庭学習の習慣化72%。  
 ・（学運協）地域保護者への協力依頼とともに根気強い指導を期待。

地域とともにある学校  
 ◎信頼される学校  
 ◎期待に応える学校  
 小中一貫教育の推進  
 ◎共同授業研究システムの充実  
 ◎児童生徒の交流の促進

◎学校運営協議会  
 ・熟議を終った意見について、「具体的な改善が見られた」との意見を全委員からもらえるようにする。  
 ◎小中一貫教育  
 ・共同授業研究での学びを、授業改善や学習規律の確保につなげる。

〈児童生徒の実態〉

- ・明るく元気で、外遊びを好む。
- ・素直で人なつっこく、決まりは守ろうとする意識は比較的高い。
- ・困難なことに立ち向かおうとする気概にやや欠ける。
- ・学習意欲に差が見られる。

〈めざす子ども像〉

- ・基礎基本となる力を持ち、理解力・活用力をのばす子ども
- ・自他を愛する豊かな心を有する子ども
- ・健康でたくましい身体を有する子ども
- ・地域を知り、地域を愛する子ども

〈めざす学校像〉

- ・自ら学び、考え、行動する力を持った子どもを育てる学校
- ・児童の学力向上に努める学校
- ・人権意識を高め、豊かな人間性を育む学校
- ・たくましく生きるための健康な心身を育む学校
- ・地域に関かれ、地域の願いに応える学校

〈本校の教育課題〉

- ・児童が主体的な学びに向かうことができるよう、基礎基本の習得にむけた授業づくり。
- ・豊かな心と人権意識を高めるための道徳の授業の工夫や学習機会の設定。
- ・家庭学習の充実を図るための保護者との協力連携。
- ・郷土愛の育成につながる教育活動の推進。

〈学校教育目標〉

すすんで やさしく たくましく

人を思いやる豊かな心と自ら学ぶ意欲を持ち、ふるさとを愛する心身ともにたくましい子どもの育成

〈地域の実態等〉

- ・旧川上村を中心とした学区であり、農業により生活を支えてきた地域である。三世同居の家庭も多く、これまでの伝統を大切に、地域で学校を支えていこうという風土がある。
- ・PTAの事業には協力的である。

〈中期的目標〉

- ・学力の基礎基本の定着を図り、自分の考えたことを表現につなげる。
- ・行事を通して成就感や自己存在感を深める学級づくり。
- ・日頃から健康と体力を高めようとする意欲を育てる保健・安全 指導の展開。
- ・地域の特色を知り、ふるさとを愛する心情の育成。

〈H30学校評価 概要〉

- ・学力の向上について、学習の習慣化を図るとともに、家庭学習の充実を図るため、学校と家庭の連携を強めて一体となって取り組めるようにする。そしてお互いが根気よく指導・支援を継続する。
- ・いじめ等の防止に向けて、日常的な情報把握に努め、児童のいじめについての認識を高める指導を進める。いじめなっしー集会や道徳の時間を効果的に使って人権意識を高める。
- ・保護者の根強い協力体制があるというものの、時代の移り変わりにより保護者の生活状況も変化してきている。様々な方法により、保護者の学校の思いを伝えて協力してもらうことは大切なことである。学校でやるべきことは何かを種々の機会をとおして家庭や地域に発信していくことが大事である。
- ・地域学習を地域と連携してこれまで以上に進めて、地域を愛する心情を培っていく。

学びあう子の育成のための力点

- ◎考えたことを話し合い、言葉を工夫して表現する学習活動の工夫
- ◎主体的な学びにつながる、わかる授業の実践
- ◎ICTの活用
  - ・興味関心を抱かせ、思考につなぐ資料や考え方の提示
  - ・情報機器を使った調べ学習とまとめ、発表機会の設定

豊かな心を育むための力点

- ◎いのち・人権を大切に
  - ・「いのち」の大切さを全教科・領域を通じた指導
  - ・学級や縦割り活動における、好ましい人間関係づくり
- ◎いじめをなくそう
  - ・日常生活の中で、「楽しい学校」について考えさせる
  - ・いじめなっしー集会を契機として自分たちからいじめをしない環境づくり

健やかなからだづくりのための力点

- ◎体を動かすこと・外遊びの奨励と環境整備
- ◎体カづくりの推進
  - 自らの健康に関心を持ち、健康な毎日を送るための保健指導を推進

地域とともにある学校

- ◎地域の教材の効果的活用と、地域人材からの学ぶ場を創出する小中一貫教育の推進
- ◎発達段階に応じた学習規範の統一
- ◎小中教員による授業づくり

学びあう子の育成

- ・「授業が分かる」と回答する児童
  - ・・・85%以上
- ・家庭学習時間の定着化
  - ・・・20分×学年
- ・話し合いを取り入れた学習活動
  - 主体的・対話的で、深い学びの実現
  - 各教科で単元のまとめ等で随時実施
- ◎ICTを使った学習活動
  - ・情報機器の効果的な使い方について各教科の学習活動を通じて学ぶ

思いやりの心・豊かな心を育む

- ◎いのち・人権・思いやり
  - ①やさしい言葉をかけられた経験 85%以上
- ◎いじめのない学校づくり
  - ①学校が楽しいと回答できる児童 90%以上
  - ②場にあったあいさつがしっかりとできる 85%以上

健やかな体

- ◎児童の体力向上への意欲を高める授業づくりや運動環境の工夫
  - ①外遊びをする子 85%以上
  - ②運動家好きと答える児童 95%以上
- ・昼休みを利用した児童会画（なわとび大会やドッジボール大会）で体力増進の機会を設定

学校運営協議会

- ・学校と地域のつながりについて、場面や方法について協議し、地域の学校づくり
- 小中合同による授業づくり
  - ・協働授業研究を機会として、学区内の児童生徒の学力状況や学習課題にせまる。



令和元年度 学校教育到達目標 高島市立今津中学校

＜生徒の実態＞

- ・まじめで素直な生徒が多い。
- ・あいさつ、返事、発表がしっかりできない。
- ・指示待ち傾向が強く主体性に欠ける。
- ・社会性に欠ける。
- ・対人関係づくりが苦手な生徒が増えている。
- ・特別な支援を要するな生徒・無気力な生徒が増加傾向にある。

＜めざす子ども像＞

- ・あいさつや掃除がしっかりでき豊かな心と社会性を身につけた生徒
- ・確かな学力を身につけた生徒
- ・明るく元気で思いやりがあり、切磋琢磨しながら誰ともうまく関わる生徒
- ・自分の考えを持ち、仲間のことを考えて行動できる生徒
- ・夢や生き方を見つけ、目標に向かって粘り強く努力できる生徒

＜めざす学校像＞

- ・保護者や地域に信頼される学校
- ・オープンで自由な風のある学校
- ・楽しく活気があり、人の温もりが感じられる学校

＜本校の教育課題＞

- ・確かな学力の定着
- ・豊かな心と感性の育み
- ・健やかな体の育成
- ・特別な支援を要する生徒への対応
- ・不登校を減らす重点的な取組
- ・社会的自立の育成
- ・保護者と教師の信頼関係づくり

《校訓》  
真理の探究・正義の実践・平和の愛好

《教育目標》  
ふるさとに愛着をもち  
豊かな心と社会性を育み  
夢の実現を図る生徒の育成

＜地域の実態等＞

- ・教育に関心があり、学校に対する期待は大きい。
- ・保護者へ学校の情報が伝わりにくい。
- ・家庭の教育力が弱くなりつつある。
- ・地域や生徒のためなら労を惜しまない人が多い。
- ・地域の未来を担う中学生を地域で育てようとしている。

＜中期的（3年間）目標＞

- ・積極的に学ぶ姿勢を持った生徒を育成する。
- ・感動や成就感を得られ豊かな心を育む体験活動を実施する。
- ・学友会活動から自主、自治能力の育成を図る。
- ・自ら学び、考え、正しい判断をし、規律正しく自分の行動に責任がとれる生徒を育成する。
- ・地域や保護者に信頼され、地域とともにある学校づくりを推進する。
- ・次期学習指導要領に対応した授業を展開できるよう、教師の授業力を向上させる。
- ・生徒に寄り添い率先垂範する教師集団を確立する。

＜H30 学校評価の概要＞

- 学力の向上…C 毎日1時間以上家庭学習している（生徒41%）  
家庭学習の取組が定着できている（教師43%）
- 豊かな心づくり…B 道徳の授業では自分の生き方についてしっかり考えた（生徒83%）  
学友会活動に積極的に取り組める指導・支援が行われている（保護者86%）
- 健康な心身の育成…B 部活動に休まずに参加した（生徒96%）
- 地域連携…B PTA活動は保護者によく内容が伝わり充実している（保護者80%）  
学校と地域が連携をとり子どもの教育を進めている（保護者73%）

＜本年度の指導力点＞

○学力向上・学習指導

- ・主体的・対話的で深い学びの授業実践
- ・朝読書と朝学習の徹底
- ・読解力の育成
- ・言語活動の充実
- ・基礎学力の定着
- ・自己表現力の育成
- ・ICT機器の有効活用
- ・学習規範の徹底
- ・家庭学習の充実

○豊かな心づくり

- ・道徳教育の充実
- ・キャリア教育の充実
- ・体験活動の実施
- ・集団を育成する行事の実施
- ・ボランティア活動の充実
- ・生徒指導の充実
- ・学友会活動の活性化
- ・教育相談の充実
- ・特別支援教育の推進

○健康な心身の育成

- ・いじめを許さない学校づくり
- ・基本的な生活習慣の徹底
- ・体験活動の充実
- ・部活動の充実
- ・自主トレの実践
- ・社会性の育成
- ・人や地域へ感謝する心の育成

○地域連携

- ・生徒の地域活動への参画
- ・人・地域から学ぶ教育の推進
- ・学校行事の工夫と実践
- ・地域とともにある学校づくり
- ・家庭、地域への広報活動
- ・関係機関との連携

＜本年度の到達目標：数値目標等＞

- ・朝読書・朝学習を徹底する生徒 90%以上
- ・授業中自ら学び、話し合い活動ができる生徒 90%以上
- ・各教科で読解力向上に取り組む
- ・学級憲法を作成し学習規範を徹底する
- ・家庭学習を毎日1時間以上できる生徒 80%以上
- ・授業がよくわかると答える生徒 80%以上
- ・ICT機器を活用した授業実践に取り組む

- ・道徳の研究授業の実施（毎学期）
- ・夢の手帳の活用と各学年講師を招聘した生き方に関する講演会を実施
- ・生徒の感性を磨く体験活動の実施（修学旅行、校外学習、自然体験活動等）
- ・職場体験を充実させる 生徒の95%以上
- ・ヤングボランティアへの参加
- ・全校（生徒）集会を毎月1回実施
- ・各学期に生徒全員の教育相談を行う
- ・特別支援教育に関する情報交換を行う（月1）

- ・学友会活動をいじめ撲滅運動・挨拶運動を中心に活性化する
- ・学友会活動が充実した生徒 80%以上
- ・「学校が楽しい」と感じる生徒 90%以上
- ・10分間の掃除ができた生徒 90%以上
- ・校内駅伝、体育祭の参加 95%以上
- ・部活動に休まず参加した生徒 90%以上
- ・今中カフェや地域の方との交流をした生徒 90%以上

- ・地域の活動に1回以上参加 80%以上
- ・PTA学級委員を中心とした活動の実施（各学級、年間1回以上）
- ・サポーター会や各種地域団体との連携
- ・地域とともにある学校（学校運営協議会、地域学校協働本部）の組織の確立と活動の推進
- ・小中一貫教育の観点から中学校区で学校支援組織との連携を推進する
- ・授業での外部指導者の活用 年間1回
- ・配信メールによる重要な連絡内容の提供
- ・学校だよりによる情報発信 毎月1回
- ・保護者の学校に対する満足度 80%以上

生徒の目標  
保護者や地域に対しての約束

＜児童の実態＞

- ・明るく素直である
- ・真面目に努力できる
- ・コミュニケーションが乏しい
- ・発展・応用力が不十分

＜めざす子ども像＞

- ・自分も友だちも大切にできる子
- ・心も体も元気でたくましい子
- ・気づき考え自ら行動できる子

＜めざす学校像＞

互いにつながり 響き合う温かい学校

＜本校の教育課題＞

1. 地域とともにある学校を目指す『夢』『志』をもち学び合う学校
2. 授業改善・指導力を向上し、新学習指導要領につなぐ
3. 「気づき・考え・行動する」子に「伝える」場を与え、プレゼン力・コミュニケーション力を育成する

＜学校教育目標等＞

心身ともにたくましく、  
ふる里を愛する  
人間性豊かな子どもの育成

なかよく たっしやで きばる子

＜地域の実態等＞

- ・過疎化の進行にともない児童数が著しく減少している
- ・地域の教育力は保たれており、家庭・地域とも学校に対して友好的協力的である
- ・バス通学児童が6割強あり、行事等日課変更時の下校時刻設定に配慮を要する

＜中期的（3年間）目標＞

- ・学力向上を意識した取組の充実
- ・体力向上を意識した取組の充実
- ・楽しくわかる授業の実践
- ・楽しく明日も来なくなる学校の創造
- ・自分の思いを表現する力の育成
- ・人間関係づくり（縦割り活動を充実による他を思いやる気持ちの醸成）
- ・保幼小中一貫教育の一層の充実推進

＜H30年度学校評価の概要＞ 学校関係者評価 B

- ・全般的に工夫して学校経営や授業改善にチャレンジされていて、大変良い。園小中学校の連携がよくできていて、異年齢の子どもたちが賭活動や交流を通して温かく優しい心を醸成できている。
- ・地域団体や関係機関とも結び ついでいる。スポーツデーは校種の枠を超えて地域に開き、盛況で来校者が増えて大成功であった。地域文化祭へ学校音楽会が参入する新たな取組もよく、双方向の行き来が始まったと感じた。つながりひびきあう教育の第一歩が踏み出せている。
- ・学校目標達成に向けて特色をうまくアピールして学習発表会につなげていた。6学年間のふるさと学習の集大成として、体験活動と運動した積極的な取組であった。学校力と教員の指導力が高く、どの子どもも堂々と大きな声で発表できていた。

なかよく（徳）

- ①仲間・集団づくり
  - ・心に響く道徳授業
  - ・絆を深め認め合う集団づくり
  - ・特別活動・縦割活動の工夫
- ②共生する力・生き方学習継続
  - ・『オグラスプロジェクト』
  - ・特色ある地域学習の継承発展
  - ・森林・田んぼ・自然体験活動
- ③特別支援教育・福祉教育推進
  - ・個別支援計画による指導相談
  - ・保護者・専門的関係機関連携
  - ・障がい児（者）理解教育推進

たっしやで（体）

- ①命を大事にする環境づくり
  - ・安心できる居場所
  - ・命の学習・安全教育取組
  - ・教育相談週間計画実施
  - ・アンケート調査結果の活用
- ②生活習慣確立・食育推進
  - ・『NO!メディアウィーク』
  - ・『早寝 早起き 朝ごはん』
  - ・保健学習・食育指導の充実
- ③体力向上策の継続
  - ・『健やかタイム』の充実
  - ・苦手種目克服・技能習得
  - ・みんな遊び・外遊びの奨励
  - ・異年齢ふれあい活動工夫

きばる（知）

- ①学力向上のための授業改善
  - ・「学び合い」授業の追究
  - ・課題解決的な学習の確立
  - ・6年[算数科]教科担任制実施
- ②指導方法の工夫
  - ・ICT機器活用・道徳外国語指導
  - ・朝学習の工夫
  - ・「朽東漢字検定」の継続
  - ・中学校区ルールの徹底
  - ・家庭学習「10分×学年」以上
  - ・朝読書朝学習補習授業 BUT
  - ・図書貸出冊数増（図書利用）
- ③学習規律確立・学習習慣定着
  - ・中学校区ルールの徹底
  - ・家庭学習「10分×学年」以上
  - ・朝読書朝学習補習授業 BUT
  - ・図書貸出冊数増（図書利用）

チーム「くつきひがし」

- ・学校情報提供・地域連携推進
- ・地域とともにある学校

・保護者への道徳授業公開	2回/年
・縦割り・児童会活動など仲間づくり	随時
・児童集会での個人発表機会	1回/年
・稚拙放流・川に学ぶ学習・町探検	低学年通年
・森林学習・どんぐりプロジェクト	中学年通年
・朽木探訪(登山) 米作り	高学年実施
・福祉教育計画的実施(社協連携)	1単元/年
・個別支援計画と面談指導相談実施	1-2回/学期
・いじめを許さない学校・学級づくり	いじめ0件
・「いじめゼロ」意見発表	毎学期実施
・元気に挨拶「立ち止まって自分から」	毎日実施
・講師招聘「命の学習」	246名実施
・「学校が楽しい」と思う児童	100%
・安全集会・避難訓練(お出掛け隊)	4回/年
・調査結果即指導対応ケース会議	100%
・小中『NO!メディアウィーク』	100%
・栄養教諭による各学年食育TT指導	100%
・朝食摂食率&睡眠時間充足率	100%
・小中スポーツデー【運動会体育祭】	大成功
・放課後健やかタイム工夫実施	週3回実施
・運動場で遊ぶ機会増加みんな遊び	毎水曜日
・できる技を増やす児童	100%
・「授業が楽しい勉強がわかる」児童	100%
・保幼小中でのT-T指導授業交流	随時
・学力調査確認テスト結果活用	100%
・教科担任制の実施(高学年算数科)	苦手単元
・ICT機器等を活用した授業	毎日
・毎日の朝学習(読書タイム漢検等)	毎日15分
・次期学習指導要領への移行期対応	道徳水2実施
・「学習のきまり」統一・小中一貫共通	
・家庭学習時間10～15分×学年	100%
・BUT小中連携学び合い学習	95%
・読書量の増加 低学年(1・2年)	1回/月
・読書量の増加 中学年(3年)	180冊/年
・読書量の増加 高学年(4年)	120冊/年
・読書量の増加 高学年(5・6年)	100冊/年
・各種広報&メール配信・HP更新	随時
・朽木：学運協・地域学校協議本部	スムーズ発進

# 令和元年度 学校教育到達目標

# 高島市立朽木西小学校

<本年度の指導力点>

<本年度の到達目標：数値目標等>

## <児童の実態>

- ・互いに仲よく物事に真面目に取り組む。
- ・明るく元気で、活動的である。
- ・大人との関わりは良好だが、他校の子ども同士の交流では、自分のよさが十分発揮しきれない。
- ・集団内で意見を交流させる機会が少なく、多様な意見の中で自分の考えを深めにくい。

## <本校の教育課題>

- ・地域の豊かな自然や文化、人材を生かしたへき地校ならではの教育活動の工夫
- ・極少人数学級の良さを生かした学習指導の充実
- ・コミュニティ・スクールを軸にした「地域とともにある学校」の構築（学校と地域が連携・協働する体制づくり）

## <地域の実態等>

- ・学校の教育活動に理解があり協力的である。（PTA賛助会員）
- ・学校を愛し、子どもに対する愛情が深い。
- ・地域の生活文化の伝承等の学習にも、講師として熱心に指導していただける。
- ・人口減少による地域の過疎化。

## <H30学校評価の概要>

- 西小学校の運営は良好であると考えている。校長をはじめ教職員と保護者の間にも、諸課題を解決しようとする意志と風通しの良い話し合いの場が持たれている。関係者の不断の努力に敬意を表すと同時に、このような関係がさらに地域へと広がっていくことを望む。
- 少人数の中で地域に根差した伝統や文化を生かした多くの体験活動は、今後の児童の未来に大きな力となっていくので、今後も継続的に実施していただきたい。
- 和太鼓演奏の取組は毎年素晴らしく、子どもたちの成長に見合ったきめ細かな指導が徹底されていて、しかも子どもたちも楽しそうに取り組んでいる。地域の人たちとの関係性も良く、西小児童と教職員は西地区で愛されている。子どもたちにとって、学校が楽しい場であり続けてほしいし、教職員の自由でアイデアのある取組を、積極的に展開して欲しい。

## <めざす子ども像>

- 明るく健康な子ども
- 深く考えやりぬく子ども
- 心豊かな子ども

## <めざす教師像>

- ・人間性と専門性を発揮して組織体として協働する教師
- ・家庭・地域との連携・協働により子どもの成長を育む教師

## <学校教育目標等>

針畑を愛し  
心身ともにたくましく生きる  
心豊かな子どもの育成  
じょうぶでがんばる やさしい子

## <中期的(3年間)目標>

- ・保幼小中一貫教育の一層の充実
- ・学校運営協議会、地域学校協働本部を中心とした「地域とともにある学校」の推進
- ・キャリア教育の充実

## ○ 明るく健康な子どもの育成

1. 適切な言葉遣いの習慣化
2. 体力の向上
3. 安全・健康に対する自己管理
4. 自主的、実践的態度の育成
5. 防災・安全教育の推進

## ○ 深く考えやりぬく子どもの育成

1. 自分の思いを豊かに表現し、深く考える指導の工夫
2. 学習意欲の向上と基礎・基本の定着
3. 家庭学習の工夫と習慣化
4. 体験を通じた学びの充実
5. 保幼小中一貫教育での学びの充実
6. 外国語教育の推進
7. 読書活動の充実

## ○ 心豊かな子どもの育成

1. 人に「感謝」できる心の育成
2. いじめを許さない学校づくり
3. 考えを深め心にひびく道徳教育の推進
4. きめ細かな教育相談の実施
5. 系統立てたキャリア教育の推進
6. マイスクール事業の推進

## ○ 地域とともにある学校づくり

(チーム朽木西)

1. 保護者や地域、関係団体・機関等との情報共有と信頼関係の構築
2. 学校運営協議会の運営と地域学校協働活動の推進

## ① TPOに応じた挨拶、言葉遣いの定着

- 【每学期末自己評価】
- ② 長休み等を活用した全校での運動遊び【毎日】
- ③ 身の回りの整頓、衛生に心がけた行動【毎日】
- ④ JRCの理念「気づき、考え、行動する」の実践【月末自己評価】
- ⑤ 保護者や地域・関係機関等との連携による実践的な防災・安全学習【年間5回】

## ① 極少人数の良さを生かした授業改善と個に応じた指導の工夫(年間3回の授業研究会の実施)【100%】

- ② 「授業が楽しい、勉強がわかる」児童の評価【100%】効果的なICT機器の活用【随時】
- ③ 家庭学習の工夫と習慣化【家庭学習実行率100%】
- ④ 地域の人、豊かな自然、文化を生かした体験学習や沖島小との交流事業の実施【年間10回以上】
- ⑤ 東小学校での交流学習や中学校教員による教科担任制授業の実施【年間複数回実施】
- ⑥ コミュニケーション能力の素地を培う外国語指導助手とのTT授業【低10時間・中35時間・高70時間】
- ⑦ 読書の質の向上
  - ・朝読の実施、家読の奨励、新聞記事の活用
  - ・「お気に入りの1冊」発表会【每学期1回】
  - ・読書量の増加【月：低10冊、中5冊、高4冊以上】

## ① 人に感謝し、感謝されることを喜びと感じる心の育成と仲間づくり【每学期末自己評価】

- ② 児童会によるいじめ防止の取組【每学期1回】
- ③ 毎週水曜日2校時は全校道徳の時間。地域の人や保護者に参画いただく道徳授業の実施【年間1回】
- ④ きめ細かな教育相談の実施と全職員による情報共有・対応【随時】
- ⑤ 「夢の手帖」等を活用したキャリア教育の推進【每学期末自己評価】
- ⑥ 和太鼓演奏の技能の向上とその成果の発表【運動会・文化祭・感謝祭・交流事業等年間7回以上】
- ① 保護者会・学校評価等でのニーズの把握と学校だより・HP更新による情報発信【随時】
- ② 学校運営協議会での学校教育目標や経営方針等の共有、課題解決に向けた熟議【年間5回以上】

〈児童生徒の実態〉

- 全体的に明るく素直な生徒が多い
- 何事にもまじめに取り組む生徒が多い
- 勤労意欲が高い
- △固定化された人間関係の中で本音を出すことを遠慮する

〈めざす子ども像〉  
「郷土のよさと課題に気づき、地域とともに心豊かで、たくましく生きる生徒」

〈めざす学校像〉  
「生徒の思いや夢が叶えられ、豊かな人間力、社会性が培える学舎(まなびや)」

〈本校の教育課題〉

- 人間関係を柔軟に築き、そのときの条件に応じた人との関わりを持てるようにすること
- 少人数の中でも切磋琢磨し、互いに向上しようとする
- 小規模校ならではの教育活動を模索し、視野を広げること

〈学校教育目標〉

杉の木とともに 大地に根を張り 幹を太らせたたくましく伸びる

- 朽木の自然と地域の人々とともに、ふる里を愛し、ふる里を語る
- 豊かな知識や技能、自分を支える体力、粘り強い精神力や豊かな人間性を高める
- 夢や目標を持ち、自分で考え自分で判断し、たくましく未来を切り拓く

〈地域の実態等〉

- ◇学校への温かい支援
- ◇四季を通して、豊かな自然環境
- ◇少子高齢化、転出による人口の減少
- ◇大人の価値観の多様化による、家庭環境の変化

〈中期的目標〉

- 「学び合い」学習の深化、充実
- 人権文化を創造する学校づくりの継続
- インクルーシブ教育の推進と充実
- 小中一貫教育の深化、発展
- 朽木を愛する心を育む体験活動の推進
- 学校運営協議会、地域学校協働本部を核とした「地域とともにある学校」の推進

〈H30学校評価 概要〉

- 穏やかな良い生徒達だと感じる。「学び合い」や「ビルドアップタイム」の取組は朽木中学校の特徴として、今後も発展継続させてほしい。
- 「ふるさと学習」に関して、良い面だけでなく、中学生の目の前の「ふるさと」で起こっていることを深く掘り下げて考えるために、地域社会の現状を苦しい側面を含め、理性的にみつめる知性の涵養をしてほしい。
- 少人数であることのメリットを生かした学校づくり、人間づくりをしていることがわかる。

知 「学習指導」

- ◎「学び合い」を核に、生徒が意欲的、主体的に取り組む授業の創造
- ◎家庭学習の習慣化(「家庭学習の手引き」の活用)
- ◎保小中一貫教育を通した系統性のある学習指導
- ◎ICTの活用

徳 「道徳、生徒指導」

- ◎いじめを許さない生徒指導の推進
- ◎生徒個人に寄り添った教育相談の充実
- ◎豊かな人間性・社会性をはぐくむ体験活動の推進
- ◎道徳の教科化への取組

体 「体育・保健・部活動」

- ◎生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成
- ◎体力の向上と健康の増進
- ◎望ましい生活習慣の育成

地域とともにある学校  
「保障中一貫教育、地域連携」

- ◎スポーツデー(小学校との合同運動会)への取組
- ◎学びの連続性を重視した教育の推進
- ◎学校と地域の協働による新しい文化の創造と発信

他 「主体性、自主・自律の精神の育成」「生徒会活動」

- ◎主体的な活動による自主・自律の精神の育成
- ◎自己の課題の克服と、自己研鑽への取組
- ◎自主的、創造的な活動と縦割り活動の活性化
- ◎地域貢献活動の推進

- ◎「学び合い」の授業の実践と授業公開の設定、研修
- ◎家庭学習の習慣化
- ◎小中合同授業(Build Up Time)による、生徒のコミュニケーション力の育成

- ◎情報交流会の実施(毎日)
- ◎教育相談旬間の設定
- ◎地域の特性を生かした体験活動の実施
- ◎校内研究を柱とした道徳授業研究会の実施

- ◎全校体制による部活動への取組
- ◎体力向上をめざすトレーニングプログラムの実施
- ◎保護者との協力による規則正しい生活習慣の確立

- ◎合同運動会に向けての小中協働による計画、実施
- ◎保小中一貫教育の実践を通した保小中の職員の交流と長期スパンを見通した朽木のこどもの育成
- ◎学校運営協議会、地域学校協働本部との協働による学校課題の解消

- ◎「自分磨きタイム」の活動での主体的な取組
- ◎一定期間での見通しを持った自主的、計画的な取組
- ◎清掃活動・学校行事・生徒会企画等における縦割り集団の積極的な活用
- ◎地域貢献活動等による地域との交流

## 高島市立安曇小学校

**<児童の実態>**

- ・素直で明るく、人なつこい子どもが多い。
- ・与えられたことや指示されたことは真面目に取り組める。
- ・主体的に取り組む力がやや弱く、忍耐力、根気に欠ける面がある。
- ・コミュニケーションをはかる力や人間関係づくりにはやや弱さがある。

**<めざす子ども像>**

- ・明るく健康な子ども
- ・友と学び合える子ども
- ・心豊かで仲良くする子ども

**<めざす学校像>**

- ・たくましく成長できる学校
- ・学ぶ楽しさを実感できる学校
- ・安心して学べる学校

**<本校の教育課題>**

- 各教科における基礎的・基本的学習内容を確実に身につける指導に努め、言語力・思考力を育成する。
- 特別支援を要する児童や生活基盤に課題のある児童へ適正な見取りと支援計画を立てる。
- 言語環境を整え、伝え合い、思いやる力を育て、互いに認め合い尊重し合う人間関係を育成する。

**<学校教育目標等>**

合言葉  
じょうぶで がんばる やさしい子

豊かな心と自ら学び考える意欲をもち 心身ともにたくましい安曇っ子の育成

**<地域の実態等>**

- ・PTA活動や行事ボランティア等、学校教育に協力的である。
- ・保護者の考え方の多様化、生活基盤の脆弱化等子どもへの影響が深刻化している。
- ・商業地域に近く、交通事故や不審者等の面で注意を要する。
- ・新しい学校文化の創造の期待

**<中期的（3年間）目標>**

- ・基礎、基本の確実な習得と、話し合いや学び合いを活性化し、考えを高め合う授業の創造
- ・読解力等言語力、活用力を高める授業の展開
- ・道徳教育の充実と共に豊かな人間関係を育成し、いじめを許さない仲間づくりの推進
- ・健康、体力づくりに取り組むとともに豊かな心の育成
- ・小中一貫教育の推進による教育課程や生徒指導面での連携と学力観等の意識共有
- ・地域と協働しながら家庭や地域に発信する学校教育の推進
- ・ICT活用による、わかる、できる授業の創造

**<H30年度学校評価の概要>**

- ・(児) 勉強がよくわかる 91% 話が聞いている 94% あいさつ 85%
- ・(教) 校内研究により授業力の向上に努めた。互いに学び合う同僚性を構築する。
- ・(評) 家庭の教育力を高める粘り強い働きかけと関係機関との連携に努める。
- ・(P) 仲のよい友達がいる 96% 家庭学習ができている 90%

**<本年度の指導力点>**

- 自ら学び考える教育の創造
  - ・魅力ある分かる授業と基礎的・基本的な学習内容を高め、創造的な学習の推進
  - ・話し合い活動の質を高め、創造的な学習の推進
  - ・リバーウォッチング活動や福祉学習を核とした生活科、総合的な学習の推進
  - ・話す、交わることをとおして、楽しく学ぶ外国語活動、外国語科の推進
  - ・読み聞かせ、朝読書など読書活動の充実
- 【学力向上がターゲット8の具現化】
- 豊かな心と人間関係づくり
  - ・児童によるいじめ啓発活動
  - ・言葉遣いや言語環境の整備
  - ・インクルーシブ教育の推進
  - ・気づき、考え、実行する特別活動の実践とV.S活動推進
  - ・教育活動全体を通じた道徳教育の充実と藤樹先生の教えに学び実践する心の教育の推進
- たくましい心と体づくり
  - ・業間運動、鉄棒や縄跳び、等、体力づくりの推進
  - ・道徳教育（道徳科）推進
  - ・もくもく掃除の取組
  - ・食育の推進や早寝早起き等生活リズムの構築
  - ・いじめ根絶（自尊感情育成）
- 小中一貫教育の推進
  - ・学力向上や生徒指導面での連携推進
  - ・授業交流の推進と学力観、指導観、評価観の意識改革
  - ・小中教員の指導観共有
- 家庭、地域等との連携
  - ・学校便りやホームページ等保護者、地域への情報発信
  - ・新たな地域人材の発掘
  - ・学校運営協議会の運営
  - ・地域学校協働本部との連携
  - ・新しい安曇小学校文化の創造

**<本年度の到達目標：数値目標等>**

**【確かな学力の向上】**

- ・学校に来るのが楽しい、児童自己評価率90%以上をめざす。
- ・授業が楽しい、わかるの児童自己評価率95%以上をめざす。
- ・相手の話をしっかり聞いた、児童自己評価率95%以上
- ・自らの課題に主体的に取り組む家庭学習、自主学習の習慣化。
- ・リバー学習は、楽しいの児童自己評価90%以上を目指す。
- ・外国語活動は楽しいの児童の自己評価率95%以上を目指す。
- ・朝読書等読書の習慣化

**【豊かな心づくり】**

- ・いじめをしない、許さない児童の育成
- ・学校、学級は居心地がよい、児童自己評価率90%以上をめざす。
- ・個別の教育支援計画、合理的配慮に基づく、きめ細かな指導と支援の実践。
- ・藤樹先生の教えに学び、よりよく生きる道徳教育の推進
- ・縦割り活動による、良好な人間関係の育成

**【たくましい健康と体づくり】**

- ・マラソンや鉄棒、縄跳び週間、業間運動で体力づくりに努める。
- ・学級や縦割りで見んなで遊ぶ機会を月1回以上企画する。
- ・生活アンケート等実施し、家庭に啓発して、子どもたちの生活習慣の改善を図る。

**【小中一貫教育の推進】**

- ・教育課程や生徒指導面での連携会議を定期的に実施する。
- ・6年生の合同学習や学力向上部会による授業交流を推進する。

**【家庭、地域等との連携】**

- ・あど小通信を月1回以上発行する。
- ・ホームページの充実と月1回以上の更新を行う。
- ・地域人材をより積極的に活用する。
- ・統合による新しい安曇小学校文化の創造

児童の目標

保護者や地域に対する約束

令和元年度 学校到達目標

高島市立青柳小学校

＜児童の実態＞  
 ○明るく、素直で人に対して、優しい気持ちで接することができる。  
 ○異学年の児童と仲良く活動できる。  
 ○興味のあることには進んで取り組む。  
 ○自ら考えを述べ、それを行動に移すことは苦手である。  
 ○忍耐力、積極性が不足している。

＜めざす子ども像＞  
 ◎ なかよく  
 ◎ やりぬく  
 ◎ たくましく  
 ＜めざす学校像＞  
 地域とともに歩む学校

＜本校の教育課題＞  
 ○郷土の先哲「中江藤樹」の教えを本校教育に生かす取組の充実  
 ○確かな学力の向上を図るため、『我が校の学ぶ力向上策』の点検、改善、実行、評価  
 ○特別支援を必要とする児童への対応と、それに係る職員研修の充実  
 ○保護者、地域住民と連携を図り、地域とともに歩む学校を実現

＜学校教育目標等＞  
 自ら学び  
 心豊かで たくましい  
 子どもの育成

＜地域の実態等＞  
 ○自然に恵まれ、歴史と伝統を受け継ぐ地であり、地域の方は学校教育への関心が高く、協力的な人が多い。  
 ○耕作地は多いが農業従事者は少なく、近隣に勤める勤労者が多い。  
 ○保護者の価値観の多様化。

＜中期的目標＞  
 ◎めざす子ども像  
 ・愛敬の思いをもち、互いに励まし合える子  
 ・誠実で、生き生きと活動ができる子  
 ・心身ともに健康で、何事も最後までやりぬく子  
 ◎めざす学校像  
 ・地域の文化や中江藤樹の教えを教育課程に取り込み、実践の成果があげられる学校  
 ・教職員が高い研修意欲をもち、自ら学び、自ら考え子どもと共に伸びようとする学校

＜H30年度学校評価の概要＞  
 ・中江藤樹先生の生誕の地であるという誇りをもって青柳小学校独自の教育活動を今後も継続し、実践してほしい。  
 ・青柳小学校独自の「一家庭一家訓」の取組を継続し、振り返りをしてほしい。  
 ・学習することの意義をキャリア教育の視点から子どもに意識させてほしい。  
 ・例えば、集合したら静かに待つという、次の事を考える子どもにしてほしい。  
 ・学校と地域の連携をより一層、充実してほしい。  
 ・いじめを見逃すことなく、初期の段階でしっかりと厳しく指導してほしい。

＜本年度の指導力点＞

○学力の向上  
 ・「我が校の学ぶ力向上策」の点検、見直しにより学力向上を図る。  
 ・保護者と連携し、家庭学習の習慣化を図る。  
 ○言語活動の充実  
 ・国語科における言語活動を基盤とし、各教科での言語活動の充実を図り、思考力、判断力、表現力を育む。  
 ・「考え議論する道徳」の充実。  
 ・外国語活動を通してコミュニケーションを図る資質、能力の育成。  
 ○小中一貫教育の推進  
 ・高島市小中一貫教育標準カリキュラムを活用し、めざす15歳の姿を共有して各段階での教育活動に取り組む。  
 ○子どもの体力向上  
 ・「子どもの体力向上プラン」に基づく取組を実践する。  
 ○集団づくり  
 ・けじめのある生活を送ることのできる集団を育成する。  
 ・誰に対しても思いやりの気持ちをもって接し、いじめを許さない集団を育成する。  
 ○藤樹学習と地域との連携  
 ・学校運営協議会、地域学校協働本部が一体となった学校・地域づくりを行う。  
 ・地域の文化や伝統を取り入れた体験的な活動を実践する。  
 ○教職員の資質向上  
 ・言語活動の充実等、本校教育の重点内容の研修に努める。  
 ・学校運営への参画を自覚し、自らの分掌に責任を持つ。  
 ・学校支援と地域支援を意識した保護者、地域との連携。

＜本年度の到達目標：数値目標等＞

○学力の向上  
 ・「我が校の学ぶ力向上策」について、学期ごとに評価、改善を加え、実効性のあるものにする。  
 ・家庭学習の習慣化のためPTAと連携して展開する。「一家庭一家訓」の実践と振り返り  
 ○言語活動の充実  
 ・校内研究のテーマ「子どもたち自身が共に学び合う授業の創造」の確実な実践。  
 ・「考え議論する道徳」において多様な考えを大切に授業の充実。  
 ・外国語活動を通して「聞くこと・話すこと」等の言語活動の充実。  
 ・「先生はわからないときに丁寧に教えてくれる」（児童評価 90%以上）  
 ○小中一貫教育の推進  
 ・現学年での学習活動が、上学年や中学校でのどの学習につながるかを意識した授業づくりに取り組む。  
 ・小中教職員の積極的な情報交換。  
 ○子どもの体力向上  
 ・食育の推進や体育科の学習を核とした運動遊びを促進する。  
 ○集団づくり  
 ・生徒指導に関する情報交換やケース会議により、適切かつ早期に対応する。また、いじめは絶対に許さない。  
 ・「縦割り活動や全校的な行事では、自分から進んで活動している」（児童評価 90%以上）  
 ・「進んであいさつや返事をしている」（児童評価 90%以上）  
 ○藤樹学習と地域との連携  
 ・「学校では藤樹先生に関係する勉強をやっている」（児童評価 90%以上）  
 ・「掃除を頑張っている」（児童評価 90%以上）  
 ○教職員の資質向上  
 ・子どもにトコトン関わる。（学習や運動・遊びなど）  
 ・積極的な研修への参加とOJTの推進。  
 ・保護者、地域としっかりと連携し学校支援と地域支援を充実させる。

児童の目標・保護者や地域に対しての約束

＜児童の実態＞  
 ○健康で、伸び伸びと活動する。  
 ○異学年の子どもに優しく接するが、同学年の子どもには自己中心的な言動をすることがある。  
 ○指導は素直に受けるが、自ら考えて行動を起こすことが苦手である。

＜めざす子ども像＞  
 ・心身ともにたくましい子  
 ・自分の志を表現しようとする子  
 ・互いに認め合い、尊重し合う子  
 ＜めざす学校像＞  
 ・安心、安全な学校  
 ・子どもが生き生き学ぶ学校  
 ・地域に根ざした信頼される学校  
 ＜めざす職員像＞  
 ・専門性を発揮し組織体で協働する  
 ・使命感をもって研修に励む

学力向上のための力点  
 ○基礎学力、考える力の定着  
 ○主体的に課題解決に取り組み、思考を深める学習指導  
 ○家庭学習の定着、充実  
 ○学年の発達段階に応じた読書習慣の定着  
 ○未来を見据えた教育の充実  
 外国語活動、キャリア教育、ICT活用、プログラミング教育

○学力の向上  
 ・「学習が分かる」 (90%以上)  
 ・「学習したことは、将来役に立つ」 (90%以上)  
 ・話し合いを中心にした授業で一人一発言  
 ・研究授業、公開授業の実施  
 ・家庭学習の習慣化 (低学年：20分、中高学年：10分×学年)  
 ・読書量 (低：2000P、中2500P、高：3000P)  
 (教科書に出てくる本5冊以上)  
 (手のひら文庫：10冊以上)

＜本校の教育課題＞  
 ○児童の主体的な学びのある授業の工夫  
 ○主体的な姿勢でけじめのある生活を送り、思いやりの気持ちを表現できる集団づくり  
 ○課題をもつ児童への指導と支援、集団への適応力の育成  
 ○保護者、地域との実質的な協働関係

＜学校教育目標等＞  
**校訓**  
**『たくましい子 本庄の心』**  
 「主体的にけじめのある生活を送り、思いやりの気持ちを表現できる子ども」

豊かな心を育むための力点  
 ○いじめを許さず、思いやりの気持ちを表現できる集団づくり  
 ○ふるさとの人材、先達の教えを基にした活動  
 ○人権意識を高める授業や取組  
 ○新学習指導要領の本格実施を見せた道徳授業の推進  
 ○道徳的価値感を意識した教育活動

○豊かな心の育成  
 ・学級が楽しい、学校へ行くのが楽しい (90%以上)  
 ・相手を大切にし、呼び捨てをしない (80%以上)  
 ・地域が好きだ、地域に誇りを持っている (90%以上)  
 ・道徳の授業は楽しい (90%以上)  
 ・目的やめあてを意識して活動に取り組んだ (90%以上)

＜地域の実態等＞  
 ○滋賀を代表する自然遺産である琵琶湖に近く、豊かな自然環境に恵まれている。  
 ○学校の取組に理解があり協力的な保護者や地域の方々が多い。  
 ○農業や漁業との兼業、会社勤めが多くなっている。  
 ○少子高齢化に伴う地域力の低下、文化・伝統継承への不安がある。

＜中期的（3年間）目標＞  
 ○基礎基本の充実を図り、思考力を伸ばす。  
 ・言語にこだわった学習に力を入れる  
 ○自ら考え、ともに学び合う力をつける  
 ・自らの志を実現しようと努力する意欲を育てる  
 ○豊かな心、たくましい体を育てる  
 ・様々な体験を通して、心身ともにたくましい本庄っ子の育成を図る

たくましい心身を鍛えるための力点  
 ○より高く目標を設定し、その達成に向かって努力する児童の育成  
 ○早寝・早起き・ご飯、あいさつの習慣の定着  
 ○自己肯定感の向上  
 ○すべての子どもにとって居心地の良い環境作り

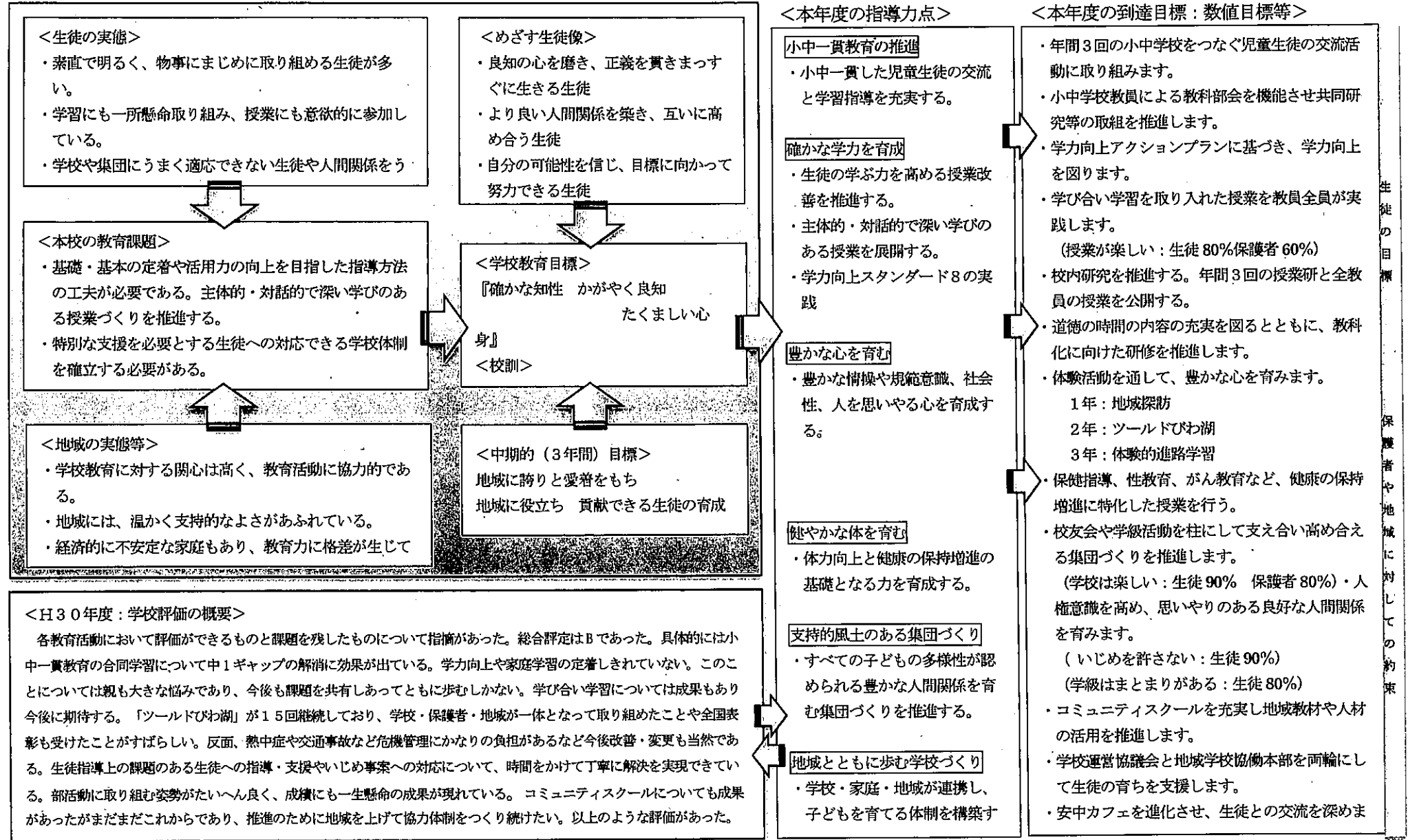
○心身のたくましさ  
 ・自己目標(マラソン、遠泳)を達成することができた。(90%以上)  
 ・早寝・早起き・朝ご飯の習慣が身に付いている。(80%以上)  
 ・挨拶ができる。(80%以上)  
 ・自分のことが好き。(90%以上)  
 ・学校は安心である。(90%以上)

＜H30年度学校評価の概要＞  
 ・本庄小学校は、他校にない地域や保護者との関係を保って学校運営をしている点で大いに評価できる。  
 ・保護者との連携を今後も継続し、地域との関わりが増えるよう考えてほしい。  
 ・学習面で「目標を十分またはほぼ達成」と自己評価している子が97%というのはすごいことである。しかし、目標はあくまで「Aが100%」である。  
 ・マラソンや遠泳で自己目標を設定し、それを達成した児童の満足した顔が印象的でうれしく思う。「自己目標」としたところが大変よい。  
 ・全体的に子どもたちも先生たちもよく頑張っておりよい流れになっている。しかし、そんなときこそよいものを過度に求めやすくなるので、注意願いたい。

地域とともにある学校  
 ○学校運営協議会、地域学校協働活動の推進  
 ○保護者や地域の方々が参観や参加がしやすい取組の推進  
 ○学校からの積極的な情報発信  
 ○安心、安全な学校づくり  
 保小中の一貫した連携強化  
 ○小中学校への円滑な進学を目指した体験入学・合同学習の工夫  
 ○小中合同による研究授業の実施

○保護者や地域との連携  
 ・学校運営協議会の実効的な運用  
 ・授業参観、学校行事への保護者参加 (90%以上)  
 ・学校・学年だより等により、学校や児童の様子が分かる。(80%以上)  
 ・毎月の安全点検の実施  
 ○保小中の連携強化  
 ・中学校進学への不安を感じていない児童 (100%)  
 ・小中合同の研究授業の効果を感じている教員 (100%)







＜児童の実態＞

個々の課題は別にして、児童は、何事にも真面目に一生懸命取り組み、明るく活力にあふれ学校生活を過ごしている。  
一方で、小中学校9年間をほぼ同一の集団で過ごすため、人間関係がこじれると、その修復に労力を要したり、こじれた関係が固定化されてしまうようなことがある。  
このような中で自己表現が苦手で、自分の気持ちをうまく相手に伝えられなかったり、自分本位の判断をしたりして、よりよい人間関係を築けないことがある。

＜めざす子ども像＞

- たくましく元気な子
  - かしい判断ができる子
  - しっかり聴いて、よく考える子
  - まわりを思いやる子
- ＜めざす学校像＞
- 学びを大切にしている学校
  - 心を磨き高め合う学校
  - つながりを大切にしている学校
  - 地域とともにある学校

＜本校の教育課題および理念＞

縦をつなぐ小中一貫教育と横をつなぐ地域とともにある学校づくりを通して、自ら学び、正しく判断し、実践できる力と豊かな心を育み、保護者や地域に信頼される学校を創造する。

＜学校教育目標＞

確かな学力と豊かな心を身につけ、たくましく未来を拓く子どもの育成

＜地域の実態等＞

- 一部旧城下町の商業地はあるものの、農山村部が校区の主である。
- 新興住宅はあるが、旧来からの佳き伝統文化を引き継ぐ風土がある。
- 人口減少傾向にある中、校区が広範囲のため、群れて遊ぶ子どもの姿が見られなくなった。
- 保護者や地域は、教育に対する関心が高く、学校教育には様々な場面で協力的である。

＜中期的（3年間）目標＞

- 「主体的、対話的で深い学び」の実現をめざし、カリキュラムマネジメントに基づく授業改善を図る。
- 基礎基本の習得を徹底し、学び方を身につける。
- 道徳教育を基軸に児童の個性や可能性を最大限に伸ばす指導を進める。
- 児童理解を深め、人間的ふれあいを基調にした指導の充実を図る。
- 児童の自主的体験的な活動を重視する。
- 家庭・地域との連携を密にし、開かれた学校づくりに努める。

【H30 学校評価概要】

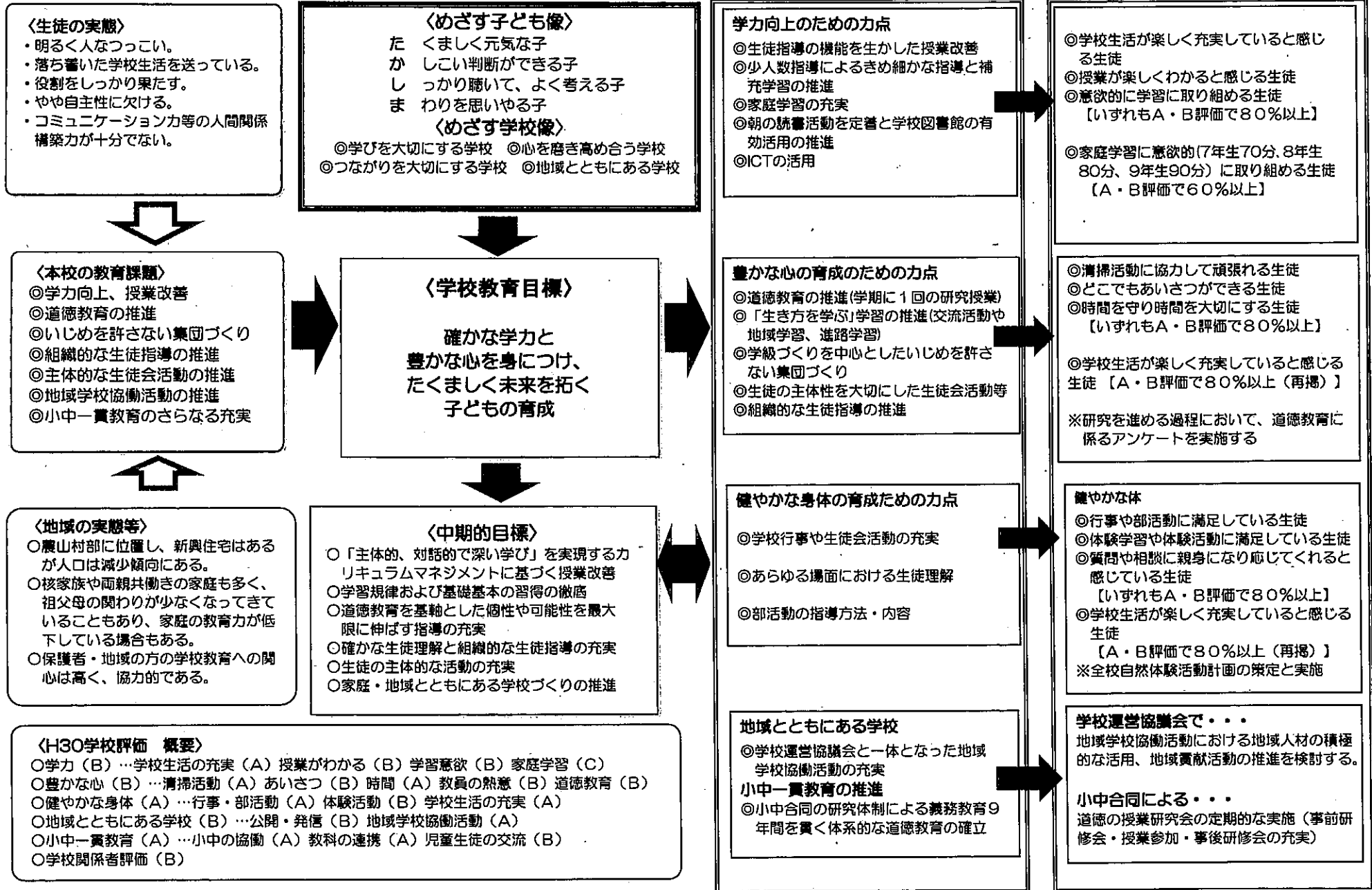
- ・楽しい学校、わかる授業 ……B 楽しい学校80% わかる授業89% (児)
- ・家庭学習で目標時間を達成……B 76% (児) 68% (P)
- ・読書に一生懸命取り組む ……B 67% (児) 41% (P) ……実態との差
- ・自分からすすんであいさつ……B 83% (児) 68% (P) ……実態との差
- ・小中一貫教育の推進 ……B 学園研究を通じて9年間を見通した指導を意識した71% (教)
- ・学校、学年・学級だよりで学校の様子がわかる……B 84%(学校だより)、88%(学年・学級だより)
- ・地域学校協働活動等効果的な地域との連携……B 79% (P)

【本年度の指導重点】

- 小中一貫教育の推進と充実
  - ・9年間を見通した教育課程の実践
  - ・児童生徒の学力の向上
  - ・小中合同授業研究会の充実(道徳科)
  - ・教科の専門性を生かした授業の展開(一部教科担任制)
  - ・各ステージでリーダーシップを発揮できる力の育成
  - ・特別な支援の必要な児童生徒への継続的な指導(通級指導教室の開設)
- 学力の向上
  - ・「わかる」授業の展開と個に応じた多様な学習指導の工夫
  - ・教科の専門性をいかした授業の展開(再掲:加配教員による英語学習)
  - ・タブレット等ICT機器を活用した授業改善と活性化
  - ・「家庭学習の手引き」を活用した学習習慣の確立
  - ・読書活動、読書環境の充実
- 豊かな心の育成
  - ・特別な教科「道徳」の充実(教科化による質的転換)
  - ・キャリア教育の視点を生かした道徳、総合的学習の充実
  - ・豊かな感性を磨き、感動する心と表現力の育成
  - ・心を耕す芸術とのふれあい
- 豊かな人間関係づくりと社会性の育成
  - ・人間関係、集団づくりの工夫(ステージ活動や縦割り活動の工夫)
  - ・いじめを許さない学校づくりの展開
  - ・各ステージでリーダーシップを発揮できる指導の推進
  - ・学園生活のめあて(あいさつ、掃除、時間を守る)の徹底
- 体力・健康づくりの推進
  - ・日常生活における体力づくりの習慣化と基礎体力の向上
  - ・基本的生活習慣の定着
- 開かれた学校づくりの推進
  - ・学校運営協議会の運営と地域学校協働活動事業の実施により、「つながり響き合う教育」の具現化を図る。
  - ・地域と学校が協働して地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える。

【到達目標・数値目標】

- ・「主体的・対話的に学びを深める子の育成」をテーマに小中合同授業研究会を充実させる。
- ・教員の授業交流により、高学年で一部教科担任制を拡充するとともに、中学校教員等教科の専門性を生かして学力の向上につなげる。
- ・各ステージの活動を充実させるとともに、ステージを越えた児童生徒の交流、教職員の交流を推進する。(9年生による低学年児童への読み聞かせ、8年生の二分の一成人式への参加協力等)
- ・通級指導教室で学習する新たな児童生徒の指導事例を増やす。
- ・「わかる楽しい授業」80%以上(児童)。
- ・タブレット端末を使った学び合い学習の充実。
- ・チャレンジタイム(漢字検定)、パワーアップタイム(国語算数の基礎基本・記述力育成)の充実。
- ・家庭学習の時間を達成した児童が80%以上。(1・2年:30分、3・4年:30~50分、5・6年:60~70分以上)
- ・ゆめノートチャレンジウィークを設定し、ゆめノートの活用を通じて児童の意欲を喚起する。
- ・年間1・2年50冊3・4年30冊5・6年20冊以上読書。
- ・道徳の教材開発と家庭地域への公開に努める。
- ・全校の前で自分の考えや思いを発表する機会を増やす。
- ・キャリア教育の視点から、総合的な学習の時間や道徳科のカリキュラムの改善を行う。
- ・学んだ道徳的価値を実践する(7か7つ)活動を教育活動に位置付ける。
- ・文化芸術に直に触れ、豊かな情操を養う。(舞土の先輩ヴァイオリニスト西川栄利さんの来校)
- ・「ゆめタイム」で、友達や多様な人々との交流。(第1st「ちびっこFestival」、第2st「MyCity高島」等)
- ・学級活動等特別活動の充実により、主体的で協力的な学級集団づくりを図る。
- ・いじめのアンケートや啓発によるいじめ未然防止。
- ・人権の日(毎月)や人権集会(12月)を充実する。
- ・あいさつができる児童80%以上をめざす。
- ・縦割り遊びや縦割り掃除の設定(学期ごと)により、望ましい縦割集団と真面目に取り組める態度の育成。
- ・大縄跳びや業間マラソン等による体力向上をめざし、体力テスト等の記録を伸ばす。
- ・食育や睡眠の大切さを理解して生活に生かす。
- ・PTAと連携した『ノー スクリーンデー』の定着
- ・学校・学園情報を定期的に発信し、保護者、地域の人々の来校機会を数多く設定する。
- ・学校運営協議会を定期的に開催し、評価をPDCAに生かして地域学校協働活動との連携を図る。地域コーディネーターをもとに、人材のネットワーク化を図り、地域の教育力を活用して、総合的な教育力向上を図る。



〈児童生徒の実態〉

- ・素直で指示されたことにまじめに取り組める児童が多い。
- ・家庭環境の影響もあり、学力の面で2極化が生じている。
- ・学習において特別な支援を要する児童が多い。
- ・自己表現が苦手な児童が目立つ。

〈めざす子ども像〉

- ・自分も仲間も大切にできる子
- ・自らあいさつする子
- ・自ら考え、きく子
- ・自ら努力し続ける子

〈めざす学校像〉

- ・一人ひとりの居場所がある「安心」できる学校
- ・「自分もやってみよう」と「意欲」がもてる学校
- ・子ども・職員・家庭・地域、みんなで「協働」する学校

〈本校の教育課題〉

- ・望ましい生活習慣を身につけ、基礎基本の確実な習得と定着を図り確かな学力を保障する。
- ・自尊感情を高め、自他ともに大切にできる意識を高める。
- ・実体験を通してコミュニケーション能力、思考力、表現力を育成する。
- ・家庭や地域、町内各校園と連携・協働し一体となった教育を進める。

〈学校教育目標〉

かがやくひとみ

— 自律できるたくましさを育む —

〈地域の実態等〉

- ・地域の子どもたちの育成に関心を持って、学校教育に支援を惜しまない人物が多い。
- ・児童数は減少する傾向で、地域での子どもの交流が少なくなっている。
- ・従来の大規模集落の児童数が減少する一方で、駅周辺の住宅地では核家族家庭の児童が急激に増えている。

〈中期的目標〉

- ・各教科等の基礎基本の確実な定着と、協働的な学びのある授業づくりに努めて思考力、表現力の育成を図る。
- ・町内各校園とより深く連携し、系統性を意識した指導体制の一層の充実を図る。
- ・コミュニティスクールの機能により学校に対する地域の理解や関心を一層高める。
- ・自分も他者も大切にできる自己肯定感を育み、ともに生きる力を伸ばせるような児童集団をつくる。

学ぶ力の育成のための力点

- 学習規範や学習習慣の定着
- ・「学習の約束」の定着
- ・家庭学習の充実と習慣化
- ・聞く姿勢の徹底
- 生徒指導の機能を生かした授業改善
- 読書習慣の形成
- ・読書の量と質を高める環境の充実
- 授業改善に向けた教職員の学び合いの充実
- ・OJTによる授業力の向上
- ・ICTの効果的な活用

豊かな心の育成のための力点

- 自分も仲間も大切にできる心の育み
- ・すべての教育活動を通しての人権教育
- ・いじめ撲滅に向けた児童の取組
- ・学級経営力を高める職員研修
- ・教職員全員での児童の見とり
- あいさつの更なる習慣化
- ・児童会活動の積極的な取組
- 心みがき清掃の徹底
- 自尊感情の育み
- ・全職員によるポジティブフォーカス

たくましい心身の育成のための力点

- 均衡の取れた体力・運動能力の育成
- ・体育の時間の準備体操の工夫
- めあてをもって努力し続ける力の育成
- ・めあてに対する定期的な自己評価の場の設定
- 望ましい生活習慣の確立
- ・睡眠時間の確保
- ネット通信やゲームによる弊害への理解
- 食育の推進
- ・残食0の取組
- ・WEBによる周知と啓発

地域とともにある学校

- 「夢の会」の活動の充実と組織拡大
- 学校運営協議会における協働の充実
- 地域の「人・もの・こと」の教材化の推進

小中一貫教育の推進

- 他校種の保育や授業参観の機会の充実

- 児童の自己評価「授業がよくわかる」A評価60%以上
- 児童全員の家庭学習の目標時間(1~3年生30分以上、4~6年生学年×10分以上)の達成
- 児童の自己評価「話す人の顔を見て話を聞いている」A評価70%以上
- 貸し出し冊数の向上;児童1人あたり毎学期5冊以上
- 校内研究の推進と教職員の授業公開(1人年間2回以上)
- ICT機器の日常的な活用推進

- 毎週金曜日に「ふりかえりアンケート」の実施と早期対応
- マイクラススローガンの達成意識全校で90%以上
- 児童の自己評価「仲間はずれやいじめをしなかった」A評価90%以上
- 児童の自己評価ならびに保護者評価「あいさつを自分からする」A評価90%以上
- 児童の自己評価「3つの玉を大切にしよう」A評価60%以上
- 児童の自己評価「自分にはよいところがある」A評価B評価合わせて90%以上

- 課題である筋力、瞬発力の改善のために準備運動の工夫
- 4年生以上で22時までには就寝70%以上
- スマホやゲーム等の使用について家庭内でルール有り70%以上
- 残食率年間平均2%以下
- WEBによる給食献立紹介を定期的に更新

- 学校への「関わり人口」年間のべ1000人をめざす。
- 管内統一研修日の設定と全職員の他校・園への参観実施
- 教職員の地域を知る研修会の実施
- 目的を持たせた5・5交流の実施

〈H30学校評価 概要〉

- ・学力の向上: B(授業よくわかる児92%・家庭学習の習慣化: B(ただし個人差が大きいのが課題である)・仲間はずれやいじめをしない: B(児98%保92%)
- ・自分からのあいさつ: B(児92%保80%)
- ・黙って熱心にそうじをする: B(児89%)
- ・22:00までに就寝: 4年76%, 5年60%, 6年51% 6年生はC
- ・給食を残さず食べる: A(児87%)残食率は2%以下となった。

〈児童生徒の実態〉

- ・素直で元気
- ・学習や仕事への姿勢が真摯である
- ・異年齢で遊ぶことも多い
- ・気力や粘り強さが望まれる
- ・主体的な行動力の弱さを感じる
- ・学力・体力に二極化の傾向がある

〈めざす子ども像〉

- ・やさしい子
- ・かしこい子
- ・強くたくましい子

〈めざす学校像〉

- ・温かく楽しい学校
- ・進んでよく学ぶ学校
- ・明るく元気な学校

〈めざす教師像〉

- ・明るい教師
- ・授業力の向上をめざす教師
- ・子どもと共に歩む教師

〈本校の教育課題〉

- ・基礎的基本的な学習内容の理解と定着
- ・学力向上を目指す授業力の充実
- ・日常会話における適切な言葉遣い
- ・家庭における生活習慣、学習習慣の改善
- ・保幼・小・中一貫教育の推進

〈学校教育目標〉

「自ら学ぶ子どもの育成」

夢や目標に向かい、仲間と学び合い、  
支え合いながら努力する子ども

◎確かな学力を育む授業づくり

☆学力向上プログラムの実践化

- ・各教科の基礎・基本の徹底
- ・言語活動を窓口とした授業改善  
(ペアやグループを通しての対話的学び)
- ・個に応じた少人数指導
- ・教師の指導力の向上
- ・外国語教育の推進
- ・考え議論する道徳科の推進

◎確かな学力を育む授業づくり

- ①学年に応じた学習規律が守れる
- ②授業が楽しい、学習がよく分かる
- ③自主学習の充実
- ④習熟度別授業の実施
- ⑤振り返りタイムの確実な実施

☆研究授業の充実にも努め児童の学力向上に資する研究を行う

◎柔軟でやさしい心づくり

☆マイスクール事業の推進

- ・地域の人・もの・事に学ぶ
- ・心をつなぐあいさつ運動の推進
- ・縦割り活動の充実
- ・朝読書、家読など読書活動の充実
- ・ストップいじめ行動計画の推進
- ・毎月の人権の日の設定
- ・いじめゼロ集会と人権月間の設定

◎柔軟でやさしい心づくり

- ①時と場に応じた言葉づかいをする
- ②あいさつと素直な返事
- ③読書目標を持ち、進んで読書する
- ④仲間はすれやいじめをしない、させない

☆アンケート・面談の充実  
☆児童理解や関係性を築き、いじめや不登校等に組織的に対応する

〈地域の実態等〉

- ・地域の人々は温厚であり、子ども達への教育に対する関心は年々高まってきている
- ・豊かな自然・文化・人材に恵まれた地域である

〈中期的目標〉

- ・豊かな人間性、社会性の育成と学力向上  
(生活習慣・学習習慣の確立)
- ・教員の授業力の向上  
(授業改善と個に応じた指導)
- ・地域とともにある学校づくりをめざす  
(学校運営協議会 地域学校協働本部)

◎強くなやかな体づくり

☆体力向上プログラムの実践化

- ・遊びを通じた仲間づくり
- ・体力・運動能力向上の全校的な取組
- ・食育を通じた健康な体づくり
- ・生活習慣の確立
- ・学年ごとの評価目標の設定

◎強くなやかな体づくり

- ①体育の始まり5分間運動と外遊びの充実
- ②スマホ・ゲーム・テレビは家で決められた時間内を守る。「ノースクリーンデー」の推進
- ③「早寝早起き朝ご飯」を推進する
- ④虫歯の治療率向上

◎特別支援教育の推進

- ・支援体制構築と充実
- ・インクルーシブ教育の充実
- ・個別指導計画・支援計画の効果的な活用
- ・教職員理解を深める研修
- ・関係機関との連携の強化

◎特別支援教育の推進

- ☆教育ニーズに合うように全ての職員の指導力、専門力を高める
- ☆アセスメントとプランニングの実施
- ☆「報告、連絡、相談、確認、記録」の徹底
- ☆教育的ニーズに応じた多くの場が選択できる仕組みづくり

地域とともにある学校

◎保幼小中・家庭地域との連携

- ・学び合いに視点を当てた授業交流の推進
- ・生活習慣・学習習慣の確立
- ・子どもの交流活動の充実
- ・自立と共生による環境作り
- ・学校運営協議会と希望の会の充実による地域とともにある学校づくり

◎保幼小中や家庭、地域との連携

- ①家庭学習を学年×10分以上行う  
(1、2、3年生は30分)
- ②保護者や地域人材の活用
- ③保幼小中一貫教育の推進
- ④分かりやすい学校情報の発信

☆家庭学習がんばり週間の推進

〈H30学校評価 概要〉

- ・学習規律の徹底や児童の主体的な学びを意識した授業づくりに取り組めたがとも88%となり学ぶ力を育む授業づくりについて教員の中で取り組む意識が浸透してきている。
- ・時と場に応じた言葉遣い、あいさつ等、子どもはできていると自己評価しているが、教員や保護者は評価が低く差が出ている。
- ・縦割り活動は異年齢がふれあえる活動で、そのよさを生かした多くの活動がなされ仲間づくりに役立っている。(仲間はすれやいじめをしない 子どもの意識94%)
- ・学校協働本部が立ち上がり北小希望の会(保護者ボランティアの会)もできた。会員も30名を超えボランティア活動の中身も充実してきた。

